

卓越大学院プログラム 事後評価 現地調査実施要領

令和 6年 7月 22日

卓越大学院プログラム委員会 審査・評価部会

I 調査の概要

1 目的

現地調査は、独立行政法人日本学術振興会卓越大学院プログラム委員会審査・評価部会（以下「部会」という）委員が当該採択プログラムを実施する大学の学生・修了者を含む関係者及び連携先機関・修了者の就職先機関等の担当者との質疑応答及び教育現場の視察等を行うことにより、当該プログラムの成果等を確認し、評価に資することを目的とする。

2 実施主体

実施主体は、部会とする。

3 実施対象及び参加者

書面評価結果を踏まえ、事前に確認しておくべき内容が生じた場合等、部会において現地調査が必要と判断された大学を対象とする。

[調査者]

- ・当該プログラムの評価を担当する部会委員を中心とする3名
- ・プログラムオフィサー（必要に応じて参加）

[大学]

- ・プログラム責任者
- ・プログラムコーディネーター及びプログラム担当者
- ・支援対象学生及び修了者* * 修了者については可能な範囲で参加
- ・連携先機関、修了者の就職先機関等の担当者（必要に応じて参加・同席）
- ・メンター、当該プログラム事務局職員（必要に応じて同席）

4 実施方法

調査者が現地に赴き、プログラムより、書面評価に基づき事前に示す質問事項を中心に、評価項目に沿ったプログラムの進捗状況の詳細等についての説明を受けるとともに、プログラム担当者等及び学生・修了者との意見交換並びに教育現場の視察、連携先機関・修了者の就職先機関等の担当者へのインタビューを行う。

なお、部会の判断により、ウェブ会議システムによる実施等、必要に応じて代替措置を以て行う場合がある。

5 期間

1日（3時間半程度）

6 実施項目及び内容

- ① プログラムコーディネーター等からの説明・質疑応答（50分程度、説明20分、質疑応答30分程度）

調査者は、プログラムコーディネーター等から、事前に提示した質問事項に対する回答を中心に、評価項目に沿ったプログラムの進捗状況の詳細の説明を受け、その内容を基に、他のプログラム担当者等を交え、質疑応答を行う。

- ② プログラム責任者・プログラムコーディネーターを除いたプログラム担当者等からのヒアリング・質疑応答（30分程度）

- ③ 支援対象学生、修了者へのインタビュー（60分程度）

調査者は、支援対象学生、修了者へのインタビューにより、実際の教育研究活動の状況等を把握する。

- ④ 教育現場・施設等の視察、連携先機関、修了者の就職先機関等の担当者へのインタビュー（30分程度）

調査者は、プログラムからの説明を受けながら、教育現場等の視察をし、環境等の調査を行う。

- ⑤ その他、調査者が必要と判断する事項

- ⑥ 講評

実施内容は、調査者の意向に応じ適宜変更する場合がある。

II 調査実施後

調査者は、現地調査の結果をまとめ、別紙の報告書を作成し、部会に報告する。

III 現地調査スケジュール（例）

以下のスケジュールは一例であり、実際は調査内容等により異なる。

《午後実施の場合》 ※各事項には移動時間も含む。

	事 項	所要時間
13:00	調査者、現地到着	—
13:00～13:20	事前打合せ（調査者のみ）	20分
13:20～14:10	プログラムコーディネーター等からの説明・質疑応答	50分
14:10～14:40	プログラム担当者等からのヒアリング・質疑応答	30分
14:40～14:50	休憩	10分
14:50～15:50	支援対象学生、修了者へのインタビュー	60分
15:50～16:20	教育現場・施設等の視察、連携先機関、修了者の就職先機関等の担当者へのインタビュー	30分
16:20～16:30	講評前打合せ（調査者のみ）	10分
16:30～16:40	講評	10分
16:40	終了	—

「卓越大学院プログラム」事後評価 現地調査報告書

担当委員

機 関 名		整理番号	
プログラム名称			
<p>〔調査者による報告事項〕</p> <p>(報告事項) 現地調査により、事前質問事項等に関して明らかになった点について評価項目ごとに記入してください。</p> <p>(ア) 卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築</p> <p>(イ) 修了者の成長</p> <p>(ウ) キャリアパスの構築</p> <p>(エ) 大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展</p>			
<p>【その他の報告事項・特記事項】</p> <p>(ヒアリング時に確認すべき事項)</p>			